

# 平成28年度事業報告書

社会福祉法人 東京リハビリ協会

## 事業の概要

社会福祉法等の一部を改正する法律が平成 28 年 3 月に成立し、4 月 1 日より一部施行となった。社会福祉制度改革には、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化等があり、具体的には定款の変更、理事・評議員・監事の選任、評議員選任・解任委員会の設置、種々の規程等の制定・変更などに対応した年であった。

また、平成 28 年度は、弊会が社会福祉法人を取得し、40 周年を迎えた年でもあった。9 月 3 日 ANA クラウンプラザホテル成田にて、利用者、役職員等が参加した『社会福祉法人取得 40 周年記念式典』並びに、『記念祝賀会』を開催し、翌日、『周年記念旅行』として、東京ディズニーランドを訪れた。また、11 月 26 日 フォレスト・イン昭和館にて有期契約職員を中心に役職員等が参加した『感謝の会』を実施

そして、この 40 周年の節目にふさわしい、立川・日の出両事業所の設備整備事業、新たに 2 つの挑戦である「ホテルリネンサプライ事業」並びに「あわびの室内養殖事業」等を計画し、進行した。

## 重点項目

### [1]. 人材育成の強化

2 月に同種他施設 2 か所、同業他社クリーニング工場 4 か所、延べ 13 名が視察研修した。同業他社等を研修視察する事で、当会の課題、取り入れるべき事案を認識し、後日開催された職員研修会にて全職員に情報を提供し共有した。

資格取得に関しては、リネンサプライ業技能実習講習会上級に 1 名、中級に 2 名、初級に 3 名が合格した。（「2. 各種会議・支援スケジュール①外部研修への参加」 P6-7 参照）

また、新卒職員向けには、マナー講習(挨拶や電話応対等)を実施した。前期は定期面談を個別に実施し、個々の抱える課題等を明確にした。そして、先輩職員を個々に 1 名教育係として配置し、業務を行う上での指導、相談等を任せることにより、双方の資質向上を図った。教育係については教える側も教わる側も共にシステムがしっかり機能し、結果双方に成長がみられた。

## [2]. 働く場の環境改善

無事故で作業を行なうために、立川事業所では、3S（整理、整頓、清潔）運動及びその点検として安全パトロールを実施した。日の出事業所においても、3S運動を実施し、機械設備点検表、及び清掃点検表で日々確認した。

また、毎月開催される職員会議において利用者の労働事故防止対策を提案し実施した。また、毎月嘱託医検診を実施し、利用者の健康管理に努め、健康状態などについて適切なアドバイスを随時受け、健康促進につなげた。

## [3]. 利用者の自立生活移行の促進

利用者向けマナー講習会の定期的な開催のほか、地域の障害者生活・就労センター等との連携も取り入れながら、利用者の「はたらく・くらす」ための力を向上していけるよう、講習内容の改善、充実を図った。

また、各利用者の適正な所属事業への変更を行い、平均工賃の向上に努め、平成28年度就労継続支援B型事業の工賃時給実績はワークステーション立川462円、日の出リハビリ560円、ワークスタディ日の出455円となり、目標である東京都最低賃金907円（平成28年4月時点）の1/2以上を実現した。

## [4]. 両事業所におけるシステムの改善

### ①ホームページ刷新について

平成28年12月にホテルリネン・あわびの室内養殖事業などの事業振興部門ページを充実させ、営業活動に活用した。また、採用募集ページにおいて募集情報を掲載し強化した。

### ②会計システム

4月に会計システムのバージョンアップを実施し、6月度から月次会計報告に関し、年度末決算時を除き2日間の短縮が図られた。

### ③利用者支援システム

利用者に対する個別支援計画・支援記録等の充実のため、これまで使用していた利用者管理・請求システムに加え、個別支援計画システムとケア総合記録

システムを導入し、機能向上を図った。一元的な利用者支援システムの構築が可能となり、利用者一人ひとりの個別支援計画書、モニタリング表、アセスメントシート等が統一され、利用者の状況をより良く把握できるようになった。

## [5]. 災害対策の強化

### ①非常時用品の管理

立川事業所においては、平成 28 年 7 月に期限切れのため、備蓄用パン 300 個を入れ替え、また、非常食（172 名×3 日分）が平成 29 年 3 月に期限切れとなったため、新しい物に入れ替えた。その他、飲料水・備え餅等を備蓄している。

日の出事業所においては、平成 28 年 7 月に非常食缶入りパン 360 梱包、平成 29 年 1 月に非常食セット 180 人分を入れ替えた。その他、飲料水・備え餅等を備蓄している。

### ②火災等への対応

立川事業所においては、平成 28 年 11 月に消防計画を変更し、消防署に届出た。多摩川が近いため、洪水時に向けた水害事前行動計画も作成した。

日の出事業所においては、平成 28 年 7 月別館の新築・本館改築による消防計画変更に伴い消防署へ消防計画（変更）届出書の作成・提出を行った。

### ③毎月の避難訓練・防災総合訓練の実施

立川事業所においては、避難訓練を合計 12 回実施し、総合防災訓練は 9 月に実施した。日の出事業所においては、避難訓練を合計 11 回実施した。6 月と 1 月は総合防災訓練を実施し、11 月には地域の合同消防訓練に参加した。また、消防署職員立ち合いの訓練を 3 月に行い、コーポサンライズ避難訓練を単独で 4 回（内、夜間想定避難訓練 2 回）実施した。

## [6]. 各部門における重点項目

### ①事業振興部

就労支援事業収入については、11 億 18 百万円、前年比 + 4 % となった。

これは、ダイアパー事業を縮小させる一方、新規参入したホテルリネンサブ

ライ事業がその減少分を補完したことによる。

## I. リネンサプライ・クリーニング部門

リネン事業収入は8億60百万円、前年比+3%となった。寝具リースは公的機関の大口入札を含め17件、私物洗濯2件の新規顧客を獲得した。新規参入したホテルリネンサプライ事業に関しては平成28年4月より本格参入し、4月～6月の平均売上が約5.4百万円で推移したものの、平成29年1月売上高は11百万円を達成した。平成28年度は年商約1億10百万円を超えることができた。

## II. 「あわびの室内養殖事業」と「観賞魚リース事業」

観賞魚リース事業収入は1億93百万円、前年比+6%となった。5年契約満期者とのコミュニケーションを常時取る事と、新規訪問件数を倍増することを目標とした結果、契約更新71台、新規27台、合計98台を獲得した。

あわびの室内養殖事業に関しては、平成29年4月からの本格販売に先立ち、北海道の事業者様からひな祭りの行事用に約20kgの注文を頂いた。今後、記念日などに施設利用者等にあわびを食して頂きたいと考えている。

## III. ウェス部

ウェス事業収入は59百万円、前年比+6%となった。昨年に引き続き、上質白メリヤス（輸入品）を廉価で提供、またファックスDMを実施し、55ヶ所の事業所と新たに取引を開始した。29年度からエコマークを入札などで使える様、その取得に動いた。

## ②生産・訓練部

### I. リネンサプライ・クリーニング部門

#### (1). 生産数値の管理を徹底

立川事業所においては、日々の生産数を日報及び月報において管理を行い、機器類の最大生産数へ少しでも近づける様日々の改善を行った。日の出事業所においては、一日当たり及び時間当たりの機械性能最大値と比較した生産日報を作成した。担当部署ごとの改善策も日々担当者が入力し、機械性能最大

値に近づけるよう努力した。

## (2). 人材を育成する

立川事業所において緊急時に現場職員が対応出来る様、3月に洗い場の勉強会を実施した。また、日の出事業所においては7月に担当部署責任者を対象としたリネンサプライ洗浄理論の研修を実施した。

## II. 「あわびの室内養殖事業」と「観賞魚リリース事業」

あわび室内養殖の導入を決定し、岩手産や韓国産の稚貝等の仕入先を確保した。餌に不可欠な「鳴門わかめ」を直接漁協から年間を通して大量に確保し、着々と体制を整えた。気候の変動に左右されない「安定生産」、室内養殖による「衛生安全管理」、年間を通しての「適正安価」の実現を目指している。

また、観賞魚リリース事業に関しては7月に立川事業所から日の出事業所に移動した。バリアフリーで広い作業場となり、水回りも整備され、利用者が作業を安全に行えるようになった。また、作業場は完全空調で室内を一定温度に保つことができ、常に観賞魚の飼育に適した環境になり、顧客により良い状態の観賞魚を提供できるようになった。

## III. 「ウエス事業」

日の出事業所の手狭であった本館3階から6月に竣工した建物のウエス作業室に移動した。作業室においては、作業量に応じて、パーティションの操作で簡単に広さを調節できるようになった。また、専用の倉庫スペースを準備し、常時製品をわかりやすく収容し、在庫管理の徹底を実施できるようになった。ストックできる量を売上に合わせ調整でき、売上向上につなげていきたい。

# 平成28年度 決算報告

## 財産目録

平成29年3月31日現在

【資産の部】 (単位:円)	
科目	金額
基本財産	1,663,549,641
流動資産	860,968,308
有形固定資産	822,318,740
その他固定資産	164,696,004
資産合計	3,511,532,693

## 【負債の部】

科目	金額
流動負債	223,294,361
固定負債	17,786,558
負債合計	241,080,919
正味資産	3,270,451,774

## 資金収支計算書

(自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日) (単位:円)

科目	金額
事業活動収入計	1,576,108,162
事業活動支出計	1,420,408,729
事業活動資金収支差額	155,699,433
設備整備等資金収支差額	△ 320,046,344
その他の活動収入計	55,000,000
その他の活動支出計	52,000,000
その他の活動資金収支差額	3,000,000
当期資金収支差額	△ 161,346,911
前期末支払資金残高	811,760,625
当期末支払資金残高	650,413,714

## 貸借対照表

平成29年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額
流動資産	860,968,308
固定資産	2,650,564,385
うち基本財産	1,663,549,641
うちその他の固定資産	987,014,744
資産の部合計	3,511,532,693
流動負債	223,294,361
固定負債	17,786,558
負債の部合計	241,080,919
基本金	335,287,080
国庫補助金等特別積立金	843,981,450
その他の積立金	141,000,000
うち工賃変動積立金	13,000,000
うち設備等整備積立金	128,000,000
次期繰越活動収支差額	1,950,183,244
純資産の部合計	3,270,451,774
負債及び純資産の部合計	3,511,532,693

## 事業活動収支計算書

(自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日) (単位:円)

科目	金額
サービス活動収益計	1,575,769,601
サービス活動費用計	1,501,125,929
就労支援事業活動収支差額	74,643,672
サービス活動外収益計	1,105,081
サービス活動外費用計	976,678
福祉事業活動収支差額	128,403
経常増減差額	74,772,075
特別収益計	1,086,896
特別費用計	3
特別収支差額	1,086,893
当期活動増減差額	75,858,968
前期末繰越活動収支差額	1,871,324,276
当期末繰越活動収支差額	1,947,183,244
その他の積立金取崩額	55,000,000
その他の積立金積立額	52,000,000
次期繰越活動収支差額	1,950,183,244

# 監査報告書

平成29年5月24日

社会福祉法人東京リハビリ協会  
理事長 緑川 清美 殿

監事 濱田 洋



監事 小泉晴俊



私たち監事は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度の理事の職務の職務の執行について監査を行ないました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

## 2 監査意見

### ① 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### ② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。